

2019年度 伊豆急ケーブルネットワーク 第10回 番組審議会 議事録

日時：2019年11月14日(木) 10:00~12:00

場所：株式会社伊豆急ケーブルネットワーク本社事務所 会議室

番組審議会 出席者

委員：前田宗宏 委員(会長)・稲葉裕子 委員・佐藤文彦 委員
川人陽子 委員(川口正樹委員代理出席)

欠席：市川幹夫 委員(副会長)・山西和孝 委員・磯川義幸 委員

事務局：比企恒裕(代表取締役社長兼メディア事業部部長)
岩本 互(メディア事業部担当部長兼コミチャンチームリーダー)
大川 裕(課長補佐 コミチャンチーム伊東市番組担当)
原 隆晃(課長補佐 コミチャンチーム熱海市番組担当)
遠藤 昇(コミチャンチーム 編成デスク)
関 菜林(コミチャンチーム 湯河原町番組担当)
小林佑太郎(コミチャンチーム 東伊豆町番組担当)
北郷 恵(コミチャンチーム 編成担当)

議題

- (1) 前年度審議番組についての振り返り(反映報告)
- (2) 対象番組についての審議
審議対象番組 「地域ど密着バラエティ」4本 各15分
YOU YOU 湯河原
あつあつ あたみ
THIS IS ITO
みらっしえ 東伊豆
・対象番組の上映(ダイジェスト版)
・審議(ご意見・質疑応答)
- (3) 新たな取り組みについて

議事内容

- (1) 前年度審議番組についての振り返り(反映報告)

番組名「おはなしのとびら」(絵本の朗読・10分)

ご意見：
・番組の(各話)の対象年齢が判然としない。
・対象年齢を事前にアナウンスしないのか。
・BGMの選曲やナレーションとのバランスに違和感を覚える。
作品にふさわしい選曲をしてほしい。

反映：
・幼児、児童(小学校低学年)向けの絵本を選定しています。
・BGMは物語の情景に合った著作権フリー音源を使用し、効果音は物語のイメージを損なわない程度としています。
・前回の番組審議会以降、黒川みつひろ氏、田島征三氏、田中清代氏、長野ヒデ子氏、早川純子氏など著名な絵本作家のご協力や、三島在住の

手作り絵本作家、松下雅子氏の協力も頂きアマチュア作家の作品も取りあげました。

ご意見： 教育的要素のある内容や民話などもやっても面白いのでは。

反映： ・読み聞かせではありませんが、宮澤賢治作品を広く紹介する回を制作しました。
・熱海・湯河原の民話を題材にした作品を、年明けに制作する予定です。

ご意見： 教育的要素があれば、親が子供に見せるので視聴の習慣化には放送時間、時間帯はとても重要に思う、観てもらいたい視聴者層の分析も必要かと思う。

反映： 10月の番組改編に合わせ、放送時間帯を再考しました。

ご意見： 今後は外部のコンテンツや催事に頼らず、IKC 自体が創作イベントを仕掛けて、番組と連動させてもいいのでは。

返答： 検討いたします。

《上記に関する質問》

ご質問： 前田会長：視聴者から反響はあったのか

回答： 大川：たまには教育的要素のある作品の紹介もいいといった意見だったり、とても参考になったなどの意見をいただいた。

ご質問： 前田会長：著作権はまだ引っかかるのか

回答： 大川：表紙に関しては問題ないが、中身に関しては引っかかるので著作権は難しい。

(2) 審議対象番組についてのご意見

番組名「地域ど密着バラエティ」4本 各15分

ご意見

前田会長：事前のDVDを視聴して、各地域の担当が制作しているが、企画・撮影・編集はどれくらいの人で行っているのか。

関：リポーターを行っているので、カメラと一緒に取材に行き、編集などは自分が行っている。基本的には2人で制作している。

原・大川・小林：基本的には一人ですべての工程をこなしている。

前田会長：4地域を視聴していて、苦労されているなど感じた。

もっとスタッフを増やしたほうが、手をかけたほうが、より良い作品ができるのではないか。企画の段階から、様々なことを考えていると思うが、インタビューの仕方とか、聞き出し方などもっと工夫できるのではないか。

視聴者の視点に立つのが大切。まずは映ってもらうところから。湯河原の子供たちが映っているのはわかりやすい。どんなふうに演出していくのかは課題だと感じる。

稲葉委員：視聴者からこれを撮影してほしいというものを取り上げたり、プレゼント企画などもあっていいのではないかと。

大川：地元の方に頼まれることもある。そういったかなり身近な話題でもいいなと感じ

た。徐々に浸透していったらいいと思っている。

岩本部長：ほかにもニュースの取材にもいっている。地域番組とニュース取材の切り分けが難しい。

比企社長：IKC ネットワークニュースの取材に行きながら、番組を制作しているが、地元の方に頼まれたものを気軽に取材に行けるように地域番組として立ち上げた。視聴者目線も取り入れる。2週間更新となっているが、できれば短いスパンで出していきたいとは思っている。大変だが、それぞれの個性を生かして自由に作成している。個々のスキルや意識を高めることができるようなものになっている。

佐藤委員：子どもが映って、ナレーションがあつたりテロップがあつていいなと思った。東伊豆の番組も、すべての人が理解しているとは限らないので、ナレーションやテロップなどを入れてわかりやすくしてほしい。伊東の番組も解説やナレーションがあるとより興味を引く、飽きない作品になると思う。

川人委員：解説があれば映像だけではわからないものに、納得したり発見したりすることができる。地元の人でも知らないことはあるので、祭りの準備や裏方の密着などがあるとより面白いのではないか。

大川：これからの番組の参考になるような意見はないか

前田会長：地方新聞だとかメディアは敷居の低さ、自分のところにも取材にくるのかなと感じてもらえるようなドラマがあるような視点を大事にすれば、コアなファンなどが生まれるのではないか。それはケーブルテレビにとって大事なコンセプトなのではないか。視聴者の期待感を大事にしてほしい。

岩本部長：現段階では、各番組探りながら制作している。いろんな視点も考え、回を重ねていくとそれぞれの作品の色が出てくるのではないかと思っている。そういった期待感を持ってもらうことは大事なことです。まだまだ探りながら制作していきたいと思っています。

比企社長：関・小林はまだ1・2年目だが、より視聴者目線を大事に制作している。お互いに刺激し合ってよい影響となると思っている。

(3) 新たな取り組みについて報告

《緊急時対応について》

- ・大きな台風に伴い、泊まり込みで緊急テロップ、SNS 対応。
- ・断水が発生した際は、給水情報出しほしいという意見をいただき、熱海市様のご協力のもと、給水情報や断水の進捗などをテロップで対応。
- ・弊社の水道の開放。
- ・通行止め道路の情報や、画像でのツイートは反響があった。
- ・事前から、イベント中止などの情報や自治体からの情報や交通機関の情報をすべてL字にて放送。しかし被害の状況から、通常の放送をやめ、緊急の情報を放送いたしました。

岩本：もっと工夫が必要になってくるが緊急時の対応ができてよかった。

《お客様の声対応》

- ・お客様の声を収集し、よりよい番組を作成できるよう顧客満足度を向上させていくよう心掛けている。取り組みを始めている。

・東伊豆町の番組露出が増えてうれしいというような声も集まってきている。

比企社長：コミチャンは悪いニュースはなるべく報道しないが、災害情報は初めて通常番組をカットしてまで報道した。停電に関しては視聴できないため、SNSにて発信も行った。地域の方にとって役立つ会社になるように努力していく。

その他 弊社事業トピックス

《テレビプッシュに関して》

説明者：渡邊 直（クリエイティブチーム課長）、
辻井翔平（クリエイティブチームテレビプッシュ担当）

・新サービス「テレビがON!つくしらチャン」
テレビが消えていても緊急時にはテレビの電源が入り、音と画面でお知らせするサービスのご報告。
→そのほかにも生活情報をお知らせ。ごみの収集日・天気や気温や地域広報など

ご意見・ご感想

前田会長：エリア外も取り付け可能か？

渡邊課長：エリア外、ケーブル加入者以外でもネット回線と端末があれば取り付け可能。

岩本部長：来年度には熱海市や湯河原町でも導入できないか提案中。

以 上